

## 1950年 第1回日本ワールドシリーズ 優勝牌

1949年のシーズン終了後、従来の8球団による1リーグ制から、2リーグに分立することが決定、セントラル野球連盟(セ・リーグ)、太平洋野球連盟(パ・リーグ)が誕生しました。

セ・リーグは読売ジャイアンツ、大阪タイガース、中日ドラゴンズ、松竹ロビンスと新球団の大洋ホエールズ、広島カープ、国鉄スワローズ、西日本パイレーツの8球団、パ・リーグは阪急ブレーブス、南海ホークス、東急フライヤーズ、大映スターズと新球団の毎日オリオンズ、近鉄パールズ、西鉄クリッパーズの7球団です。

両リーグの球団間の選手の引き抜きなど諸問題に対し、翌50年1月には連合国総司令部(GHQ)経済科学局長マーカット少将から、両リーグ優勝チームによる日本選手権試合の開催、不正引抜の一扫、コミッショナーの設置等の指針が発表され、両リーグの話し合いが継続して行われる中、3月10日にはセ・リーグが開幕、翌11日にはパ・リーグが開幕しました。

セ・リーグは98勝を挙げた松竹ロビンスが優勝、パ・リーグは、新球団・毎日オリオンズが2位に15ゲーム差をつけ圧勝し、11月22日からは松竹、毎日により最初の「日本ワールドシリーズ」(\*)が開催。フランチャイズ制が始まる前でもあり、第1戦が神宮、第2戦が後楽園、第3戦が甲子園、第4戦が西宮、第5戦が中日、第6戦が大阪で開催され、4勝2敗で毎日が初代日本一に輝きました。

当博物館では以前この連載でご紹介したポスターや優勝ペナントをはじめ、入場券や記念章など当時の資料を保存しています。今回ご紹介するのもこの時の記念品です。表には優勝ペナントの刺しゅうと同様に、王冠と月桂樹、ボールを組み合わせた彫刻の上に、「CHAMPION-SHIP」と大会名称「NIPPON WORLD'S SERIES」と「1950」が金の文字で光っており、裏面には「日本ワールドシリーズ 1950優勝牌」と記されています。当博物館には、毎日の別当薫氏(1988年殿堂入り)のもの

とコミッショナー事務局保管用の2点が収蔵されています。銀座和光製で、直径90mm、厚さ5mm、重さ約310gの純銀製、月桂樹の実に見立てて真珠が配されています。最初の日本一決定戦ということで大変豪華な賞品です。

※日本ワールドシリーズ…1950年の第1回から53年の第4回までの名称。54年からは現在の「日本シリーズ」に。



公益財団法人 野球殿堂博物館 学芸員 関口貴広